

ニューアプローチ

新概念

日语教程

小柳 昇 著
俞素美 编译

完成编

本书附
CD 3 张

实用日本语鉴定 (J.TEST) 指定教材

日本留学考试 首选用书

日语学习的新思路新概念

提高日语能力的最佳选择

了解当代日本的最新窗口



上海教育出版社

SHANGHAI EDUCATIONAL PUBLISHING HOUSE

三・一・ア・ド・ロ・一・子

新概念

日语教程

主编：王 力
副主编：李 华



本书共分五册，每册16课，每课1小时。
本书可作为高等院校日语专业基础课程教材，
也可供日语爱好者自学使用。
本书由王力主编，李华副主编。
本书由王力主编，李华副主编。



中国对外翻译出版公司

ニューアプローチ

新概念

日语教程

小柳 昇 著
俞素美 编译

完成编



上海教育出版社

SHANGHAI EDUCATIONAL PUBLISHING HOUSE

737908

图书在版编目(CIP)数据

新概念日语教程. 完成篇 / (日) 小柳 昇著; 俞素美
编译. —上海: 上海教育出版社, 2004. 4
ISBN 7-5320-9459-6

I. 新... II. ①小... ②俞... III. 日语—教材
IV. H36

中国版本图书馆CIP数据核字(2004)第033768号

新概念日语教程

完成编

(配 CD3 张、附练习册 1 本)

小柳 昇 著

俞素美 编译

上海世纪出版集团 出版发行
上海教育出版社

易文网: www.ewen.cc

(上海永福路 123 号 邮政编码: 200031)

各地新华书店经销 上海江杨印刷厂印刷

开本 787×1092 1/16 印张 17.5 插页 14 字数 480,000

2004 年 4 月第 1 版 2004 年 4 月第 1 次印刷

印数 1—5,000 本

ISBN 7-5320-9459-6/G·9287 定价: 55.00 元

前言

学习日语的人都知道,在我国,由海外组织的最有影响的日语考试,只有日本国际交流基金、日本国际教育协会举办的日本语能力考试。

随着日本企业大量进入中国,对能够熟练运用日语的人才的需求也日趋扩大。由于目前的日本语能力考试主要注重测试考生的以功能性用语为中心的语法运用,单词的拥有量,语法的掌握程度等,而对考生实际运用日语的能力却无法准确判断。同时,由于该项考试每年只举行一次,远远不能适应国内对日语人才的需求和鉴定。为了提高日语学习者的日语实际运用能力,2003年6月,由日本语研究社在1991年开发的,参照英语托业(TOEIC)考试模式的J.TEST——实用日本语鉴定考试(以下简称J.TEST)首次在上海举行,反响热烈,获得了非常好的效果。J.TEST除了每年举行五次,还有一个非常显著的特点,即考生不仅可以将考卷带回,还可以在获得成绩通知单、认定证书的同时,获得该考卷的标准答案以及考生实际答案与标准答案的差异表,这为考生鉴定自己的实际语言能力提供了有力的根据,也为企业在评定员工语言能力方面提供了一个参考依据。到现在,经过短短一年不到的时间,已经在浙江、吉林、黑龙江、辽宁、山东、湖北、广东等地设立了常年考试站。随着参加考试人员的不断增加,考生要求出版针对J.TEST相关资料的呼声也日趋强烈,本书的出版正好满足了考生的这种需求。

学习一门外语,其目的有两个,一是研究,还有就是应用。从目前国际上对学习外语的趋势来看,更注重的是培养实际应用能力。《新概念日语教程》在中国的出版,正好顺应了这个趋势。该书注重实际,采用了大量现实生活中的语言作为范文,为希望提高日语实际应用能力的人士,提供了良好的教材。

该书的作者小柳 昇先生作为J.TEST运营委员会委员长,日本语研究社教材开发室室长,有着长期研究和开发适合于外国人学习日语,提高日语实际运用能力的教材的经验,该书自2003年在日本出版后,已经五次再版,得到了在日外籍人士的欢迎。作为外国人学习实用日语的教材,已经在日本语学校和大学的预科校广泛地被采用。

J.TEST 中国事務局

代表 董唯诚

2004年3月

まえがき

(中国語版によせて)

本書は『新概念日本語教程 基礎編』に続く教科書です。『基礎編』では、初級終了時から中級への橋渡しと中級レベルの土台固めのために、基礎となる文型・表現を体系的に学習しながら、四技能を総合的に高めていくことを目指しました。見方を変えれば、どんな時にどんな文型・表現が使われるかを学習し、「文レベル」での四技能の基礎をしっかりと築くことを目指したわけです。

そこで、次に求められるのはより大きな単位としての「談話レベル」の日本語の学習です。談話レベルでの理解と運用は、コミュニケーションできる日本語を身につける上で非常に重要なものであると考えます。つまり、文章の中で主題がどのように提示され、それぞれの要素がどのように並べられ、組み立てられているのか、話がどのように展開しているのか、どうまとめられているのか、そういった大きなまとまりとしての日本語の学習が必要です。

2002年より始まった「日本留学試験」、そして2003年6月より中国で始まった「実用日本語検定(J.TEST)」のようなコミュニケーション能力を重視したテストでは、ただ単語、文型の知識をもっているだけでなく、文章(会話)の流れを的確につかみ、状況を推測し、展開を予測しながら処理していく能力が求められます。つまり談話レベルでの理解と運用ができることが大切になるわけです。

このような能力を身につけるために、〈何を〉〈どの程度〉〈どのように〉学習すればいいのか、中級のカリキュラムの見直しが必要になっています。本書はそれに対する一つの指針を示したものです。『基礎編』の形式を受け継ぎながらも、大きな切り口を「概念シラバスの文型・表現」から「談話のための文型・表現」とし、最終的に一つのまとまった文章が読め、一つの流れのある会話ができる力がつくように編集されています。

談話レベルの文型・表現を体系的に学習し、身につけた日本語力によって、その後は自律的に学習できるようになります。日本の大学へ進学するにしても、会社で日本語を使うにしても、日本で生活するにしても、コミュニケーションできることを目標としています。

本書はメインで使われる教科書として、従来のような本文、文型・表現、練習問題という体裁をとりながらも、その中身はこれまでにない構成と内容になっています。中級、そして上級への橋渡しの段階における一つの指針となることを願いつつ、各方面からご意見、ご批判を賜りながらさらに良い教科書にしていきたいと考えています。

2004年3月

日本語研究社 教材開発室
室長 小柳 昇

「新概念日語教程完成編」の特徴

◇ニューアプローチの3つの柱

■第1の柱（談話の文型・表現）

- ・談話レベルの日本語の学習という視点から、大きく9つのテーマを設定し、中級で学習すべき項目（一部は上級レベル）を12課に分けて提出している。
- ・学習項目は概ね文レベルから談話レベルへと、より大きなものになるように配置されている。
- ・テーマごとにまとめて学習することのメリットを最大限に生かし、その一方で一度に学習することにかかる負担を考慮し、後の課の本文や例文で出てくるものについてはその情報を示し、学習する時期に柔軟性を持たせている。
- ・各課の最初に「初級」「基礎編」で学習した文型が提示されていて、必要に応じて補充・復習ができるようになっている。
- ・学習項目には全て意味・用法、例文が付いているので、教える側、教わる側双方にとって使いやすくなっている。（※解説は学習者も理解できるように簡潔でポイントをおさえた内容となっている。）

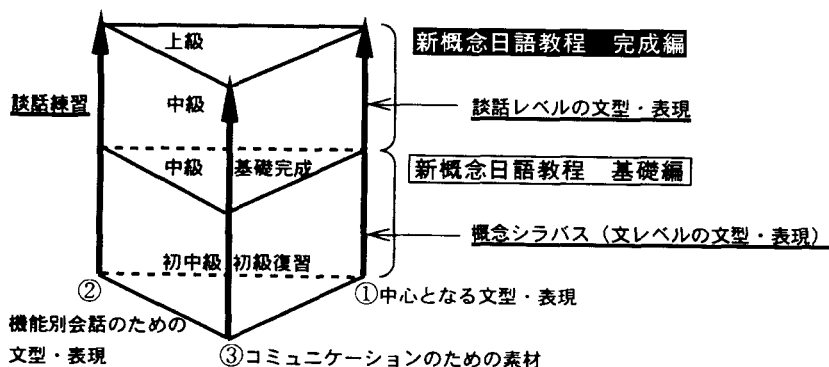
■第2の柱（機能別会話のための文型・表現と談話）

- ・「談話のための会話文型・表現」の章を設け、全体で6つの機能別の文型・表現が学習できる。
- ・「基礎編」で学習した機能別の文型・表現の流れを受け継ぎながら、本書が目標とする「談話レベル」の会話ができるように編集されている。

■第3の柱（コミュニケーションのための素材）

- ・[その他の文型・表現]として学習する項目の中に「形式名詞」「取り立て助詞」「陳述の副詞」を中心とした文型・表現が含まれており、第1の柱と同様に整理して配置してある。
- ・中級～上級レベルで学習される文法（＝いわゆる機能語と呼ばれる複合辞）のうち中級レベルと上級につながるものが厳選されて配置されている。
- ・陳述の副詞については、その数はかなりの数に上るため、[文型・表現]として取り上げたのは一部ではあるが、単語レベルでは中級レベルで学習すべきものを各課に配置してある。

3つの柱の概念図



◇読解スキルと聴解スキル

- ・3課ごとに長文読解練習が付けてある。それまでに学習した文型・表現を復習すると同時に「読む」練習をする課である。文法を学ぶために精読する文章ではなく、それまでに学習したことを生かして「読む」練習をする。そして練習ごとに読解スキルを学べるようになっている。
- ・聴解練習は留学試験に対応するために、「聴読解問題」も取り入れている。最後のほうでは、通常の聞き取り練習にとどまらず、講義を聴く練習にもなっている。（※聴解問題のCDは別売）

◇発展

各課の本文、聴解練習ごとに応用発話のための設問、作文練習ができるようなトピックを提供している。応用発話や作文などに役立つように「関連語」も整理して提出されている。

◇語彙

- ・中級に入ると漢語の語彙がかなりの量を占めるが、本書では学習者が漢語の使用に偏り不自然に硬い文を作らないように、中級レベルの和語動詞を積極的に取り入れている。
- ・複合動詞も積極的に取り上げ、一部は「関連語」としてまとめている。
- ・過去の留学試験を参考に、アカデミックジャパニーズの分野の基本的な語彙を収集し、例文や会話文などで使用している。
- ・本書を終えると、慣用語も含め、およそ5,400の語彙を学習することになる。
(初級2,000、基礎編1,500、完成編1,900 ※これは教科書で新出語として提示された語彙の概数である)

各課の基本構成

【本文を読む前に】本文の理解を助けるため、また学習者の動機付けのための設問。

【本文】各課の文型・表現が使われている読み物。

【本文設問】本文の内容についての質問（一部は推察して答える問いになっている）。

【本文新出語】本文で使われている単語のうち未習のものを品詞ごとに分類して提示。→注1

【単語の意味の確認】本文で使われている単語を新出語を中心に意味を確認するための問題。

【文型・表現】その課で学習する項目の提示と用例。

[初級、中級基礎編で学習した文型・表現] その課のテーマに属するもので既習のものの確認。→注1

[○○の文型・表現] その課の中心となる文型・表現。

[その他の文型・表現]

【文型・表現の練習】短文完成の練習問題。

【発展（話し合い／作文）】本文のテーマ、またはそれと関連することについて考え、自分の考えを発表したり書いたりするための設問。

【関連語の学習・単語のまとめ】その課のテーマや内容と関連のある単語をまとめて提示。

または、それまでに学習した単語をテーマ別にまとめて提示。

【聞き取り練習】その課のテーマとつながることを話題として取り上げ、聞く練習をする。

「聴解」と「聴読解」の二つの形式がある。

[テスト問題] 留学試験の対策用に作られた問題。

[補充問題] 通常の聴解練習用のための設問。

[発展] 聴解の内容やそれに関連することについて考えるための設問。

注1：本書は『みんなの日本語』（スリーエーネットワーク）、『新概念日語教程 基礎編』で扱われた文法・語彙を、既習のものとして扱っている。

◇記号について

【記号】

【意味】

【使用例】

*

新出語

※本文の単語の左肩に付けられている

+

初級で学習した文型・表現

☆

基礎編で学習した文型・表現

★

完成編で学習する／した文型・表現

⇔

反対語、自他動詞、対応する単語

*

親しみ

～について+

～に関して☆

★なんとか

未婚⇔既婚 添える⇔添う

悲しむ⇔悲しい

☞ 参照事項（文型・表現）

☞ 「～ことはない」 + ☞ 「～というのは」 ☆

☞ 「～からすれば／しても」 ★ L.9

→ 参照事項（単語）

→ L. 3 本文 → L. 3 文型 → L. 3 練習 → L. 3 単語

※ほかにもどの課のどのパートで扱われているかを示す → 会話 2 → 長文 2

※文型：「文型・表現」の例文 練習：「文型・表現の練習」の文 単語：「単語の意味の確認」の文

◇動詞の活用（接続する形）の示し方について

- ・【動詞（ます）形】【動詞（ない）形】：「ます形」「ない形」の語幹に接続する。
- ・【動詞辞書形／た形／て形／ない形／意志形／可能形】：それぞれの形に接続する。

◇表記について

- ・常用漢字表（及びその音訓）にないものは原則として漢字表記はしていない（→注2）。
- ・送りがなについては、いわゆる「許容」とされる送り方をとらず、「本則」に従っている。
- ・新出語は別に欄を設け（→注3）、そこでルビを振って提示、文章の中ではルビは振られていない。
- ・「初級」「基礎編」で既習の語彙であっても、本書で初めて漢字で提出する場合にはルビが振られている。

注2：新聞協会用語懇談会で使用することにした漢字（45字）と1音10訓に限り、生教材を読む場合のことも考慮し、使用している。ただし、使用文中にはルビを振り、新出語の場合には漢字は〔 〕に入れ、ほかの漢字とは区別して提示している。また、ひらがなでは意味が判別しにくいものについては、参考のために〔 〕に漢字を示した場合もある。

注3：新出語は原則として、そのページの下に設けた欄に提示されているが、「本文」と「聴解」については、別に新出語の欄を設け、そこに提示している。また、「関連語」については、下線が引かれている。

標準的な教科書の使い方

- ① 文型・表現（本文で使用されているものを中心に）
 - ② 本文新出語 ～ 単語の意味の確認
 - ③ 本文読解～本文設問（→注4）
 - ④ 文型・表現（残りのものを含めて全体）
 - ⑤ 練習問題（必要に応じて問題を補充する）
 - ⑥ 関連語の学習（必要に応じて）
 - ⑦ 本文の「発展」の設問を使って意見を述べる、話し合う
 - ⑧ 聞き取り練習
 - ⑨ 聞き取り練習の「発展」の設問を使って意見を述べる、話し合う
 - ⑩ 作文（授業中にできなければ宿題にする）
- ・3課ごとに（長文読解練習のあと）復習、定期テストなどを実施する。
 - ・2課ごとにある「会話文型・表現」は必要に応じて利用する。（文型のみ取り上げて学習しても良い）
 - ※会話、談話は付録CDに入っているの、談話を聞く練習として使用することも可能。

本書はメインの教科書として使用した場合、4～5か月で終了することを想定している。初級から学習を始めた場合、1年半のコースで、初級を6か月、初中級～中上級を「基礎編」と本書「完成編」で9か月で修了することで、十分に留学試験に対応できるようになっている。また、2年のコースでは、副教材などを取り入れながらももう少し余裕をもって進めることができるだろう。どちらの場合も、本書を終了後は、生教材を中心とした上級レベルの学習に入ることになる。（※1年のコースの場合は、スタート時点のレベルにもよるが、初級と「基礎編」の組み合わせで、適宜副教材を取り入れるカリキュラムとなる。）日本語能力試験1級のための勉強をする場合は、本書の特徴であるテーマごとの分類を利用し、各課のテーマにあわせて必要な文型・表現を補充することで効率よく学習できる。

注4：1課～8課までの本文は約1,000字、9課が1,200字、10課～12課が1,500字、長文は1,800～2,000字となっている。9課の本文から上級レベルの読解教材となっている。

付録CDの内容・トラック番号一覧表



課	内 容	CD1 トラック番号	課	内 容	CD2 トラック番号
1	本文	1～6	7	本文	1～6
2	本文	7～11	8	本文	7～12
	会話文型・表現1 ・会話1 A B C ・会話2 A B ・会話3 ・談話例	12 13, 14, 15 16, 17 18 19～21		会話文型・表現4 ・会話1 A B C ・会話2 A B C ・談話例	13 14, 15, 16 17, 18, 19 20～21
3	本文	22～27	9	本文	22～28
	長文読解練習1 本文	28～34		長文読解練習3 本文	29～37
4	本文	35～40	10	本文	38～45
	会話文型・表現2 ・会話 A B C D E ・談話例	41 42, 43, 44 45, 46 47～49		会話文型・表現5 ・会話1 A B C ・会話2 A B C ・会話3 A B C ・会話4 A B ・談話例	46 47, 48, 49 50, 51, 52 53, 54, 55 56, 57 58～59
5	本文	50～55	11	本文	60～66
6	本文	56～62	12	本文	67～73
	会話文型・表現3 ・会話1 A B C ・会話2 A B C D ・会話3 A B ・談話例	63 64, 65, 66 67, 68, 69 70 71, 72 73～75		会話文型・表現6 ・会話1 A B C ・会話2 A B C ・会話3 A B ・会話4	74 75, 76, 77 78, 79, 80 81, 82 83
	長文読解練習2 本文	76～82			

CDマークの見方



←ディスク番号

←トラック番号

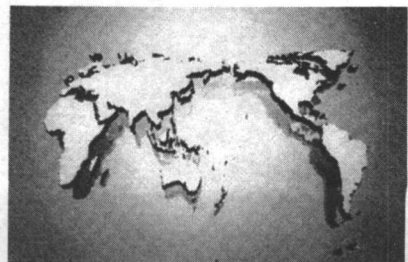
注意：



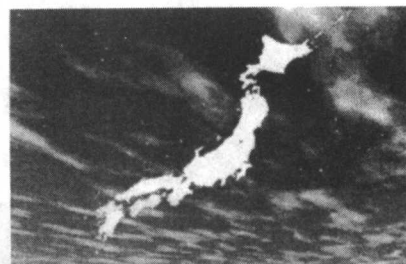
各課の聞き取り練習はCD3
に収録されています。

目 次

第 1 課 主題・対象を示す	[カタカナ言葉]・・・・・・・・・・1
第 2 課 時・場面を示す(1)	[鉄腕アトムを目指せ]・・・・・・・・15
談話で学ぶ会話文型・表現<1> 誘う～ためらう～説得	[それはそうだけど]・・・・・・・・32
第 3 課 事柄を並べる	[食生活を見直そう]・・・・・・・・39
長文読解練習1	[三つの異文化体験]・・・・・・・・54
第 4 課 対象を限定・特定する/しない [4つ目のR]	・・・・・・・・59
談話で学ぶ会話文型・表現<2> 苦情～謝る～解決	[ここに止められると困るんですよ]・74
第 5 課 事柄を加える(1)	[ブレーパーク]・・・・・・・・79
第 6 課 言い換える・まとめる	[実感]・・・・・・・・95
談話で学ぶ会話文型・表現<3> 相談～提案(賛成・反対)～決定	[それでいいんじゃない]・・・・・・・・110
長文読解練習2	[長寿国にふさわしい社会]・・・・・・・・116
・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	・・・・・・・・
・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	・・・・・・・・



第 7 課 事柄を加える (2)	[原因はどこに?] 121
第 8 課 時・場面を示す (2)	[言葉の世界を楽しむ] 137
談話で学ぶ会話文型・表現<4> 指示～訂正・変更～確認	[朝一番でお願いします] 154
第 9 課 因果関係を示す	[あいまいな境界線] 161
長文読解練習 3	[テレビを見る時間・見ない時間] . 175
第10課 逆接のつながりを示す (1)	[マニュアルとユーモアセンス] . . . 181
談話で学ぶ会話文型・表現<5> 反省～慰め・同情～励ます	[もう少し気をつけていれば] . . . 197
第11課 条件を示す	[税金に関心がありますか] 205
第12課 逆接のつながりを示す (2)	[系統樹とその先] 225
談話で学ぶ会話文型・表現<6> 意見～対立(討論)～まとめ	[おっしゃることはわかりますが] . 244
索引	249
文型・表現シラバス一覧表	268



最近カタカナの使い方をめぐる・・・
「パラサイト・シングル」はどうだろうか。

主題・対象を示す

カタカナ言葉

第1課

主題・対象を示す カタカナ言葉

■本文を読む前に

- ・カタカナは普通どんな場合に使われるか考えてください。
- ・カタカナ言葉は理解しやすいですか、しにくいですか。それはなぜですか。
- ・^{*}和製英語というのはどんな言葉のことですか。

■本文



最近カタカナの使い方を^{*}めぐる^{*}議論をよく聞く。カタカナは普通、^{*}外来語を書く場合に使われるが、ただかっこいいからとか、新鮮な^{*}印象を与えるからという理由だけで使う人がいる。それに対して何のことも^{*}さっぱりわからないカタカナを使うな、と怒る人がいる。

確かに元々ある日本語で表現できるなら、また翻訳の日本語で^{*}十分意味が^{*}伝わるなら、わざわざカタカナを使うことはないだろう。しかし、カタカナの^{*}利点も^{*}否定はできない。

例えば、「^{*}セクハラ」というカタカナ言葉は外来語で、「^{*}性的嫌がらせ」という翻訳語があるが、カタカナ言葉のほうがよく使われる。確かに「性的嫌がらせ」という翻訳語は、それがどんな^{*}行為かを^{*}示すことはできる。しかし、その行為は昔からあったことだ。^{*}価値観というも

のは時代と^{*}ともに変わる。セクハラというカタカナ言葉は、「今はそういう行為が^{*}犯罪だと認められる時代になった」ということを^{*}主張しているのではないか。つまり、カタカナを使うことによって、その新しい価値観や考え方を社会的な^{*}背景と一緒に示すことができるというわけである。

「^{*}パラサイト・^{*}シングル」はどうだろうか。成人した後も親と^{*}同居する^{*}未婚者のことを最近はこう呼ぶらしい。パラサイトとシングルはそれぞれ英語で「寄生」、「未婚者」を意味する言葉だ。一つ一つは



外来語だが、「パラサイト・シングル」と呼ばれる人々は日本の社会の話である。つまり、輸入された言葉ではなく、*国産のカタカナ言葉である。親と同居する未婚者は昔からいたはずだ。それなのに、わざわざカタカナ言葉でパラサイトと呼ぶのには、わけがあるはずだ。そこにはやはり価値観の変化、そして社会的な背景があるにちがいない。

親にしてみれば、*いつまでも子供のことがかわいくてしかたがないのだろうが、家賃や食費の心配もなく、*家事などの*身の回りのことも親が世話をしてくれるなら、これほど楽な生活はない。その上、*晩婚化が進んでいるため、親と同居する期間がますます長くなる。

大人と言え、*自立している人間のことだと考えていたが、成人後も同居を続ける未婚者は大人と言えるのだろうか。自立するとはどういうことなのか。自立が難しい社会、晩婚化が進む社会とはどんな社会なのか、そういったことをこのカタカナ言葉は*問いかけているように思う。



■本文設問

- (1) カタカナを使う利点は何ですか。
- (2) カタカナを使うと、どんな効果がありますか。
- (3) セクハラとパラサイトの翻訳語はそれぞれ何ですか。
- (4) セクハラというカタカナ言葉にはどんな意味が込められていますか。
- (5) 成人後も親と同居する未婚者が増えている原因として何が考えられますか。
- (6) パラサイト・シングルというカタカナ言葉には、この名前をつけた人のどんな気持ちが込められていますか。
- (7) セクハラとパラサイト・シングルはどちらもカタカナ言葉ですが、どんな点で違いますか。

■本文新出語 (★は文型で学習)

名詞	^{わ せい えい ご} 和製英語 ^{が い ら い ご} 外来語 ^{いん し ょ う} 印象 ^{り てん} 利点 ^{こう い} 行為 ^{か ち かん} 価値観 ^{はんざい} 犯罪 ^{はいけい} 背景
	パラサイト シングル ^{み こん し ゃ} 未婚(者)(→関連語) 国産 家事 身の回り
	^{ばんこん か} 晩婚化
な形容詞	^{せい て き} 性的
名詞／動詞	^{ぎ ろ ん} 議論 ^{ひ て い} 否定 セクハラ ^{い や} 嫌がらせ ^{し ゅ ち ょ う} 主張 ^{どう き ょ} 同居 ^{き せい} 寄生 ^{じ り つ} 自立
動詞	^{め ぐ} 巡る(★～をめぐって) ^{つ た} 伝わる ^{し め} 示す
複合動詞	^と 問いかける(→関連語)
副詞	さっぱり ^{じ ゅ う ぶ ん} 十分 いつまでも
その他	ともに(★～とともに)

◇基本動詞の用法

- ・(印象を)与える

■単語の意味の確認 (※は既習語)

【背景、自立、示す、さっぱり、十分、ますます※】

1. 説明が難しすぎて、何を言っているのか() 分からなかった。
2. 二十歳を過ぎても、なかなか() できない人がある。
3. ニュース番組ではその事件の政治的な() についても解説していた。
4. きこの試合での活躍を見て、() この選手が好きになった。
5. 政府は今後の経済政策をはっきり() なかった。
6. もう() 見たから帰りましょう。

■文型・表現

「主題・対象を示す」文型・表現

☑ 初級(+)、中級基礎編(☆)で学習した文型・表現

- ・～について+、～に関して☆、～に対して☆
- ・～というのは☆
- ・～という+ [名詞] +、そういう +
- ・～ような+ [名詞] +、そのような +、～というような+ [名詞] ☆

(1) ～をめぐって、～をめぐる+ [名詞] [围绕…; 就…]

用法: 表示有争议、有议论时使用。

注: 后接动词限定在「議論する、うわさが流れる、紛糾する」等几个词中。

1. きこのうの試合では審判の判定をめぐって、何度も選手が争う場面があった。
2. ダムの建設をめぐって、国と住民の対立は続いている。
3. 労働条件をめぐると話し合いが行われている。

参考 「巡る」作为动词,「巡り」作为名词使用。

- ・4泊5日でアジア各国を巡る旅に参加した。
- ・パリでは一日中、美術館巡りをした。

(2) ～とは [所谓…]

用法: 是「～というのは」的书面语,语气比较生硬。☞「～というのは」☆

1. セクハラとはセクシャルハラスメントのことで、日本語では「性的嫌がらせ」と訳される。
2. ランチ・バイキングとはランチメニューが食べ放題という意味だ。
3. 本当の幸せとは何だろうか。幸せとはお金で得られるものだろうか。

(3) ～というものは [也就是…]

用法: 用于说明其本质的。

☞「～というのは」☆ 「～ものだ」☆

1. スポーツ選手というものは、子供たちに夢を与えなければいけない。

しんぱん はんてい あらそ けんせつ じゅうみん たいりつ ろうどう やく
 審判 判定(する) 争う 建設(する) 住民 対立(する) 労働 訳す
 バイキング 食べ放題 ～放題